

Bangkok Music City 2026 が盛況のうちに閉幕  
ショーケースライブには日本から 5 組のアーティストが出演！

bangkok  
music  
city



24 - 25 JANUARY 2026

LIVE NATION THRO *fungjai* NYLON

CEIPA x TOYOTA GROUP “MUSIC WAY PROJECT”が国際カンファレンス・  
ショーケースフェスティバル Bangkok Music City 2026 に公式パートナーとして参画。

Billyrrom、Black petrol、CANDY TUNE、luv、山本大斗の  
出演サポート及びカンファレンスを同時開催。

---

音楽業界の主要 5 団体が垣根を越えて設立し、2025 年 5 月に「MUSIC AWARDS JAPAN」を開催した一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興(CEIPA)と TOYOTA GROUP が、本質的な日本音楽産業のグローバル化と持続的な成長支援・推進する共創プロジェクトとして立ち上げた「MUSIC WAY PROJECT」。

その一環として、タイで行われた Bangkok Music City2026 に出演した 5 組のアーティストをサポート。またカンファレンスを開催しました。

## 日本のキーパーソンが語った日本音楽産業の“いま”、そしてアジア音楽交流の未来



日本のカンファレンスセッションには、6人のスピーカーが登場。日本音楽市場の“いま”が、ライブツアー、ストリーミング、ファンダム等様々な側面から語られた。セッションは、立ち見聴講者まで出る満員御礼となり、日本音楽市場に向けられた注目の高さを感じた。

### バンコクの夜を湧かせた tsudoï '26

24日の夜には、ジェットロとの共催によるネットワーキングイベント「Japanese Music Industry Mixer “tsudoï '26”」が開催された。国内外の音楽産業従事者300人以上が参加し、振る舞われた日本酒や日本食とともに交流を深めた。



## <ショーケースライブレポート>

Black petrol、Bangkok Music City 2026 のステージに立った最初の日本人アーティストとして、観客に忘れがたい感動を残す



Black petrol の音楽スタイルは、Hip-Hop、Jazz、Funk、Soul、R&B といった Black Music を核に、多彩なジャンルから影響を受けている。複雑な構造を持ちながらも、自然と身体が揺れてしまうようなグルーヴ感を兼ね備えたサウンドが特徴だ。登場すると、まずはインストゥルメンタルのジャズ演奏で観客に挨拶し、これから始まるショーへの期待感を高める。しばらくして、ボーカルの SOMAOTA が観客に語りかけ、イントロ的なインスト曲から自然な流れで、ショーの1曲目「Cardiogram」へとつないでいった。



SOMAOTA は卓越したラップスキルを持ち、高音域の個性的な声と滑らかなフローで、畳みかけるように言葉を連ね、観客を一気に引き込んでいく。一方、サクソ奏者の Daiki Yasuhara は、バンドのジャズパートの要であると同時に、コーラスとしてラップを支え、ボーカルに奥行きと立体感を加えていた。

スタジオ音源をそのまま再現するのではなく、ライブならではのアレンジを加え、より濃密なショーを作り上げる。2 曲目「Kyoto State of Mind」では、長尺のギターソロが追加され、タイの観客から大きな歓声が上がった。音楽の熱量と激しいパフォーマンスに煽られ、会場全体がリズムに合わせて身体を揺らす。クラブミュージック調のエレクトロニックビートが印象的な「Hollow」を披露後、再び「Stressor」でギアを上げ、終盤へ。音楽の熱量とともにテンポをどんどん加速させていき、圧倒的なエンディングを迎えた。

Billyrrom、Tokyo Transition Soul という音楽の定義を通して、最初から最後まで身体を揺らさせる



東京出身の6人組バンド Billyrrom は近年の日本インディーシーンにおいて、勢いがあり、かつ強い個性を放つアーティストのひと組である。バンドは自らの音楽を「Tokyo Transition Soul」と定義している。Neo-Soul、Funk、Rock、City Pop を滑らかに融合させたサウンドは非常に国際的で、自然と身体が動き出すようなリズムを持ち、都市的(Urban Music)な感覚に満ちている。



ステージセットアップを終えると、Billyrrom は挨拶代わりにすぐさま1曲目「Noidleap」を披露。この曲ではアウトロを長く拡張し、ギターのリンが観客の目の前でソロを披露できるようにアレンジされていた。1曲目を終えると、ボーカルのモルが観客に立ち上がるよう促し、バンドのヒット曲「Once Upon A Night」へ。この曲でもソロパートを長めに取り、観客に一度しゃがむよう指示し、その後一斉にジャン

プして踊るよう仕掛けた。

ラストは最新 EP のヒット曲「Funky Lovely Girl」を披露。観客が最高潮に盛り上がる中、Mol はサビの「Oh Funky Lovely Girl」を「Oh Funky Love Bangkok」に変えて観客に合唱を促し、開催地への最大限のリスペクトを示した。大きな歓声と拍手の中でショーは幕を閉じる。

### 飾らない表現で心をつかむ — 福岡出身の新星・山本大斗



Bangkok Music City 最終日の25日に登場したのは、MUSIC WAY PROJECT、日本人出演者の中で唯一のソロアーティストである福岡出身の若きアーティスト山本大斗。彼の音楽スタイルは、特定のジャンルに縛られない現代的なポップロック。多様な音楽的影響をそれぞれの楽曲に織り交ぜており、ある曲では海の底に沈み込むような感覚を与え、またある曲では車で前へ突き進むような疾走感を感じさせる。



ショーは自身のデビューシングル「船出に祈り」でスタート。ゆったりとしたフォークポップだが、美しさと温かさに満ちており、前日よりやや気温が高く感じられる日曜の空気にもよく合っていた。曲後に観客へ挨拶し、続いてフォークソング調のメロディを持つポップナンバー「夜明迄 -Eternal Sunshine-」を披露。

エモーショナルなロックバラード「独白」も披露され、観客をしっかりと感情の渦へと引き込んだ。再びテンポを上げた「18の息吹」を終えると、代表曲「徒然 - Tsurezure」へとつなぐ。心地よいポップのバイブスと耳に残るメロディで、前方の観客も自然とリズムに身を委ねる。ラストは「さよなら - SAYONARA」。楽しい雰囲気のままショーを締めくり、観客の大きな拍手に送られながらステージを後にした。

紅白出演からバンコクへ！KAWAII LAB. 発、時代を代表するアイドル CANDY TUNE が至近距離のステージで“かわいい”のエネルギーを爆発



CANDY TUNE は現在、日本で最も知名度の高い女性アイドルグループのひとつである。2025 年末には第 76 回 NHK 紅白歌合戦のステージに立つまでに成長した。彼女たちは日本音楽界最高峰の栄誉ある舞台を終えたばかりのアーティストであり、しかも今回はファンとの距離が非常に近いステージでのパフォーマンスだ。ステージ前方には、応援タオルやペンライトを持った日本人ファンが大勢詰めかけ、周囲にもタイ人・日本人の観客がぎっしりと集まった。熱心なオタクから通りがかりの観客まで、さらに各国の音楽業界関係者も多く詰めかけ、日本を代表するアイドルのパフォーマンスを見守った。

「レベチかわいい！」や「アイしちゃってます♡」などヒット曲を立て続けに披露。このステージの応援スタイルは、他の出演アーティストとは明らかに異なる。日本のアイドル文化特有のスタイルで、オタクたちはミックスやメンバー名のコールを曲に合わせて叫び、推しメンバーのカラーに合わせたペンライトを振り続けた。MC では、メンバーが順番にタイ語で自己紹介。ミドルテンポで可愛らしいメロディの「君もゾンビですか ゾンビですね」の後、続く「TUNE MY WAY」では力強くキレのあるダンスで雰囲気を一変させた。



ラストは、2025年にTikTok総再生数40億回超を記録したバイラルヒット「倍倍 FIGHT!」。どのステージよりも近い距離で、バンコクの観客へエクスクルーシブに届けられ、あらゆる層の観客を魅了するエネルギーと明るさを放った。彼女たちから溢れる100%超えのエネルギーが十分に伝わるまさに“この時代の国民的アイドル”にふさわしい姿だった。

大阪発の“City Boy”アーティストluv、Future Soul サウンドと個性際立つファッションで存在感を放つ



ライブは冒頭から活気に満ち、代表曲「Send To You」でスタート。楽曲のグルーブ感に加え、特に印象的だったのはDJのOfeen。シンセサイザーやターンテーブルを操り、観客に手拍子を促すだけでなく、日本のアーティストの中では珍しいTalkboxも使用する。

観客が座ったまま身体を揺らし始めたのを見て、ボーカルのHiynは立ち上がるよう促し、「Motrr」へ。曲中盤ではメンバー全員がソロパートを披露し、熱気あふれる雰囲気を作り出す。



メジャーデビュー曲「Fuwa Fuwa」や、「Jamlady」、「Lee Un Vile」をスタジオバージョンよりテンポアップして連続披露。ファンクのコードを刻みながらラップを織り交ぜ、最高に盛り上がる展開を見せる。アウトロでは、揺れるファンクのリズムから一転、激しいロックへと変化し、ステージライトと相まって観客から大きな歓声が上がった。最後は「Rear」で締めくり、バンコクの夜を、チルで甘い雰囲気のまま終えた。

## 「Bangkok Music City 2026」開催概要

タイトル Bangkok Music City 2026

日時 2026年1月24日(土)～1月25日(日)

会場 タイ・バンコク「Bangkok Music City 2026」特設ステージ

出演アーティスト

Billyrrom

Black petrol

CANDY TUNE

luv

山本大斗  
\*順不同

主催 Live Nation Tero, Fungjai, NYLON Thailand  
出演サポート CEIPA x TOYOTA GROUP "MUSIC WAY PROJECT"

特別協力 文化庁

後援 在タイ日本国大使館、日本貿易振興機構(ジェトロ)、  
国際交流基金バンコク日本文化センター

【CEIPA × TOYOTA GROUP "MUSIC WAY PROJECT" とは】



コロナ禍によるライフスタイルの変化や、ストリーミングビジネスの伸長により、エンタテインメント コンテンツの市場規模は拡大しています。また、日本文化の存在感も国際的に注目されつつあります。これらが世界中の人々を熱狂させ始めている今、日本のコンテンツをもっと世界に発信すべく、日本音楽の未来を切り開いていく若者たちが進む「道」を共創し、本質的な日本音楽のグローバル化・持続的な成長を推進する。それが「MUSIC WAY PROJECT」です。「日本の音楽が世界をドライブする」を合言葉に、若き才能がもっと活躍する為の場を提供してまいります。

(写真 : (c) Bangkok Music City 2026)